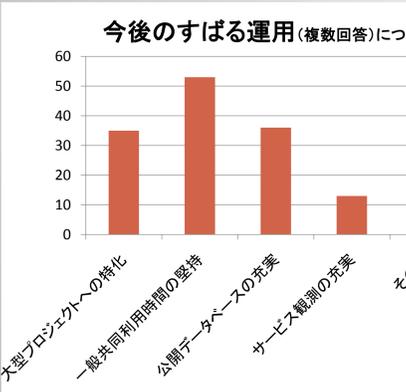
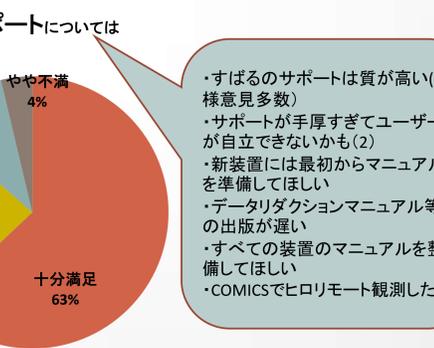
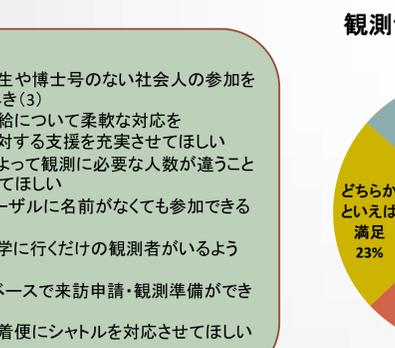
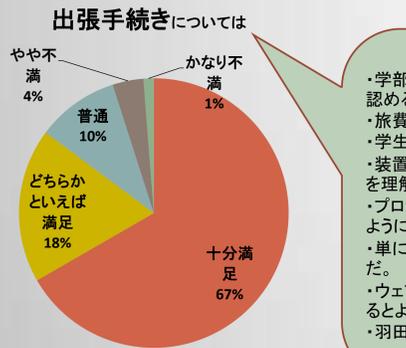
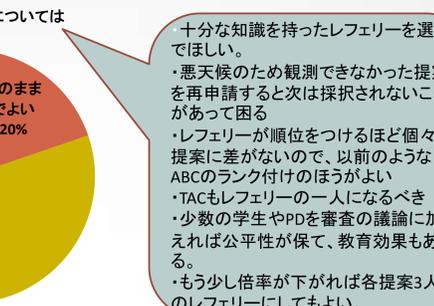
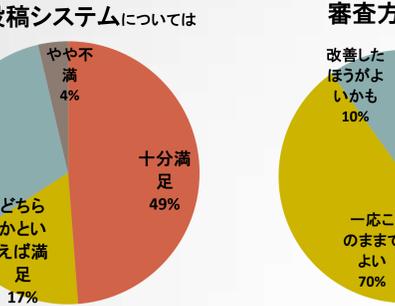
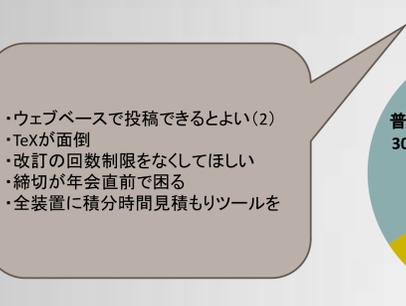
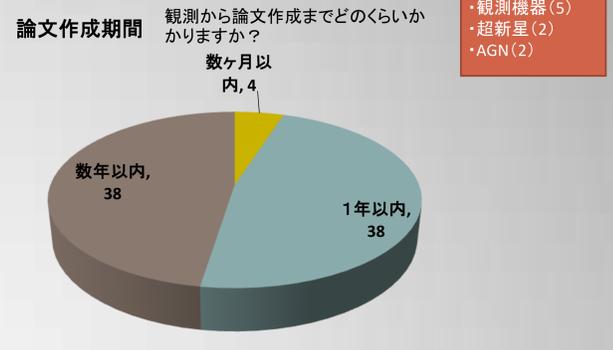
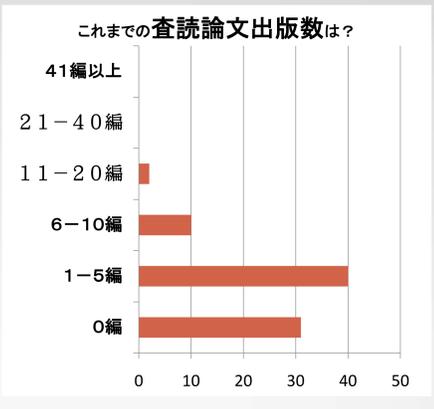
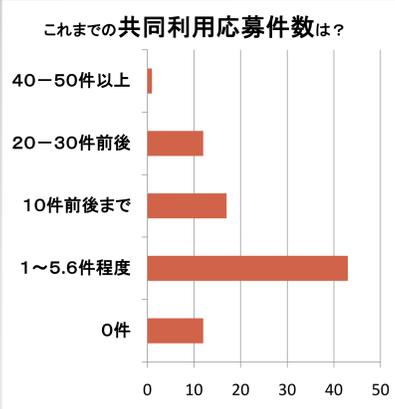
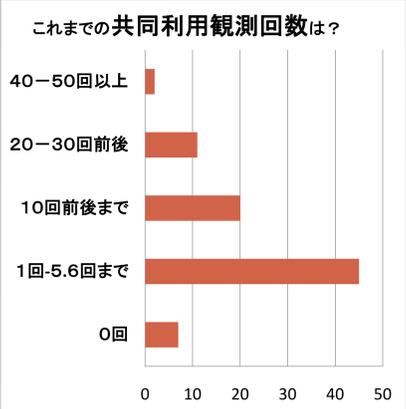
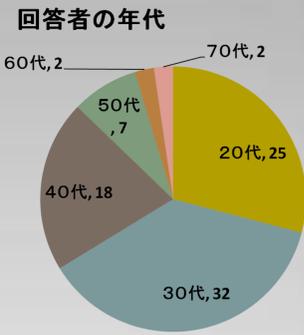
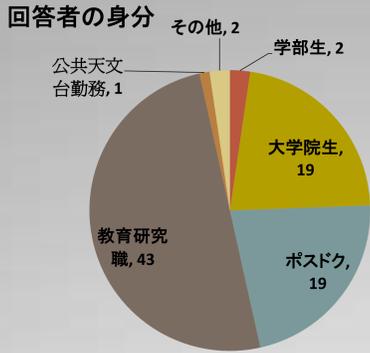


共同利用ユーザーアンケート集計

すばる共同利用担当

すばるに応募・来所経験のある日本人574人にアンケートを送付し、86人の方から回答を頂きました(回答率15%)
ご協力ありがとうございました。
集計結果と主なコメントを紹介します。

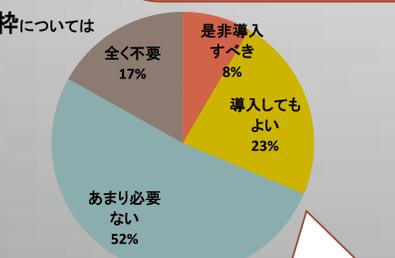
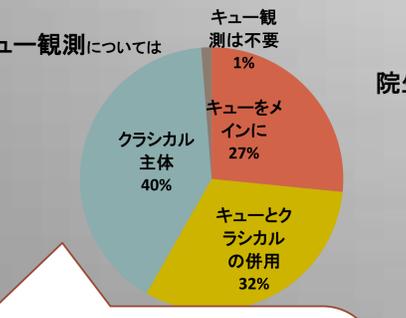
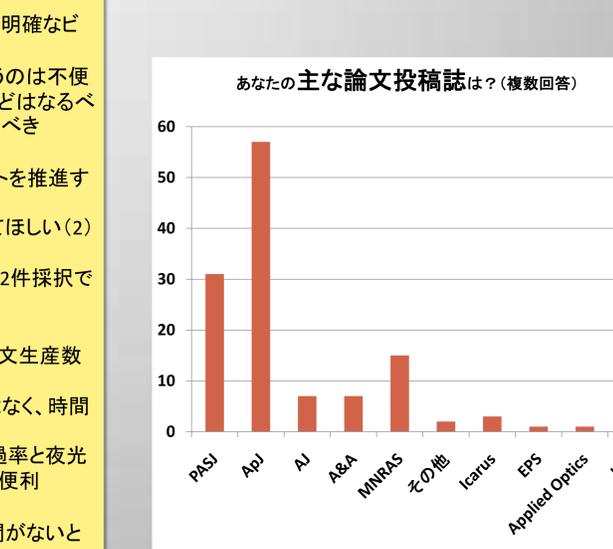
回答してくださった方々は、、、



- ・大型プログラムと個別共同利用のバランスが大事、どちらも重要(2)
- ・大型プログラムと個別共同利用は1対4くらいがよい
- ・戦略枠提案を一般共同利用と同じ土俵できちんと評価すべき
- ・戦略枠は夜数に見合った成果を出せるものだけにすべき
- ・戦略枠提案が大きな夜数を使うのなら、そのチームが予算を取ってきて他の中小望遠鏡の時間を他のユーザーのために確保すべき
- ・ToO枠へは引き続き配慮してほしい。
- ・1夜に複数の観測をアサインなどフレキシブルな運用を
- ・今後数年はフレキシブルな運用が必要になる
- ・パイプラインの整備が重要

その他のコメント

- ・今後10年を見据えて、国立天文台は明確なビジョンを示すべき
- ・国立天文台の共同利用が波長で違うのは不便である。ポータル、受付、アーカイブなどはなるべく同じデザインで使用できるようにすべき
- ・旅費と時間の節約になる三鷹リモートを推進すべき
- ・日本からのリモート観測を可能にほしい(2)
- ・「チャレンジング枠」があって毎回1-2件採択できるとよい
- ・ユーザーの固定化が危惧される。論文生産数なども調査すべきだ。
- ・割り当て時間の最小単位を半夜ではなく、時間単位で行うのも重要
- ・Mauna Kea サイトについて、大気透過率と夜光を波長の関数で示したデータがあると便利
- ・時間交換や装置削減についても設問がないと偏ったアンケート結果になってしまう
- ・アンケートにどのように対応したのか報告してほしい
- ・すばるが2台ほしい



- ・キュー観測は効率がよいが運用負担が大きいため、慎重な検討が必要(同様意見多数)
- ・装置数が多いのでキューは無理ではないか?(2)
- ・一晩に使える装置が一つではキューの効果はない。
- ・キューとクラシカルそれぞれに利点があり併用がよい
- ・今後大型サーベイの時代になればキューを検討すべきかも(3)
- ・個別の装置についてのキュー観測なら可能かも
- ・クラシカル観測で経験を積むことも重要
- ・キューの導入によって実質的な観測時間が増える
- ・長期モニター観測にキューは有効
- ・キュー観測ではデータの質の保証が問題になる
- ・人任せではデータに愛着がわかない

- ・不要。指導教官がしっかり指導すればよい(3)
- ・サイエンスメリットで審査すべき。甘やかすべきでない(同様意見多数)
- ・高倍率の現状では非現実的(3)
- ・学生の名前を借りる不正が心配(4)
- ・ポスターラインで配慮する現在の方法で十分(3)
- ・院生でも採択されている。
- ・10%を院生枠にさくべき。通常枠への応募も可とする。
- ・学位論文には配慮すべき
- ・院生枠よりもプロポーザルを日本語可にしたほうが学生支援になる

S11B公募スケジュール(予定)

公募要項公開 2月上旬(第二週頃)

Normal/Intensive 締切 3/11(金) 正午

Service 締切 4/8(金) 正午

*注意: 技術審査に必要な情報はScientific Justificationではなくform内のTechnical Informationの項に書いてください